

～ 1977年の有珠山噴火から35年～

8月7日、そうべつ情報館iにおいて、壮警町主催「1977年有珠山噴火を語り合う会」が開催されました。岡田弘氏(北海道大学名誉教授)、新井田清信氏(様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会学術顧問)、三松三朗氏(三松正夫記念館館長)がお話しされたほか、参加者の皆さんからも当時の状況が生々しく語られました。

今から35年前の8月7日、朝9時12分、有珠山は山頂から噴火しました。前兆地震の発生からわずか32時間後のことです。噴火は断続的に続き、雨によってセメント状になった火山灰が農作物に甚大な被害をもたらしました。また、有珠山のふもとに降り積もった火山灰や土砂が、翌年の豪雨によって土石流となり、洞爺湖温泉で住民3名の命を奪う災害となりました。

この噴火のデータをもとに、1995年に降灰・火砕流の危険がある区域を予測したハザードマップ(火山災害予測図)が作成され、次の噴火への備えとして活用されました。その後、2000年噴火のデータを加え、2002年に改訂版が発行されています。

20～30年おきに噴火を繰り返す有珠山は、恵みの山でもあります。災害を最小限に抑え、恵みを最大限に活かすために、継続した防災・減災の取り組みが必要です。



1977年8月7日の噴火の様子

洞爺湖有珠山ジオパーク 見どころ紹介

「道の駅そうべつ情報館 i(アイ)」

壮警町にある道の駅。観光・農業・交通・火山防災について情報を提供しています。「i」は「information(情報)」、「であい」「ふれあい」から名付けられました。24時間トイレなど道の駅機能のほか、消防庁舎も合築されており、噴火災害時には災害対応拠点として活用できるようになっています。



1階の農産物直売所では、とれたて野菜やりんごジュースなど加工品を販売。2階には「火山防災学び館」があり、火山とともに歩んできた歴史や、洞爺湖有珠山ジオパークを紹介するパネルなどが展示されています。

ここからは有珠山・昭和新山の展望を楽しむことができるので写真撮影のポイントとしてもおすすめです。

おすすめジオグルメ「ジオアイス」

大福豆(おおふくまめ)は、インゲン豆の一種で、味の良さと白色を活かして、甘納豆や和菓子などの材料に使われています。なんと全国生産量の50%以上が胆振産。まさに洞爺湖周辺の「ジオ(大地)の恵み」です。

2010年に壮警町商工会青年部さんが開発した「ジオアイス」は、大福豆をバニラアイスに練りこんだもの。大福豆のやさしい甘みがほんのり広がるアイスです。

そうべつ情報館・レストハウス梓ばんけいおんせんゆのとや・蟠溪温泉湯人家で販売しています。(価格350円～500円)

住所: 壮警町字滝之町384番1

電話: ☎ 0142 76-4200

開館時間: 11/15まで 9:00～17:30 無休

11/16～3/31 9:00～17:00 火休

12/31～1/5 年末年始休館

交通: 道道453号線沿い

無料駐車場あり